

### 3 人間文化研究科の令和4年度FD活動

大妻女子大学大学院人間文化研究科 FD 委員会は、令和4年度～6年度の3年計画で、大学院におけるFD活動の実施計画を策定した。この実施計画にもとづき、個々の具体的なFD活動を実施してきたので、その実情を以下の通り報告し、今後の活動に繋げたい。

#### I. 令和4年～6年度大妻女子大学大学院 FD 実施計画

##### 1. 基本方針

大学院FD委員会の協議のもと、院生の入学から修士課程修了ならびに博士後期課程修了までの全学習・研究過程を視野におさめながら、より質の高い教育ならびに研究指導の実践を目指して、大学院における教育力を高める。よって、大妻女子大学全学の教育力向上に貢献する。

##### ① FD活動の目標

大学院FD活動の目標を次のように定める。

- ① 学部・短大FDと大学院FDの連携のもとで、学部の入学・卒業から大学院入学・修了までを展望したFD活動を実施する。
- ② 教育活動に有益なFDを実施することに努め、教員が協力しやすい状況をつくり、全員の参加を目指す。
- ③ 教員対象のFDにとどまらず、職員や院生の協力・連携を基盤とした、全体的なFDに取り組む。
- ④ 個々のプログラム内容の充実に努め、その成果に関する情報を集積し、関係者との共有化を進める。

##### ② FD活動の計画

大学院FD活動の計画は次の通りとする。

- ① 「大学院進学意識に関するアンケート」
- ② 「大学院の研究・教育に関する意見の収集」
- ③ 「大学院修了時アンケート」
- ④ 院生・教員懇談会の実施  
開催の時期・方法については、各専攻・専修の協議によるものとする。懇談会の結果、院生からもたらされた意見・要望については、その都度、取りまとめて、FD委員会に報告する。
- ⑤ 学会発表の奨励に関する活動  
活動実態については、専攻ごとに取りまとめて、年1回、FD委員会に報告する。
- ⑥ 学内発表会の奨励・支援に関する活動  
活動実態については、専攻ごとに取りまとめて、年1回、FD委員会に報告する。
- ⑦ 院生論文集発行の支援に関する活動  
「人間生活文化研究:International Journal of Human Culture Studies」を掲載誌とし、編集事務局の援助を受けながら発行していく。
- ⑧ 他大学との各種連携の活性化に関する活動  
活動実態については、専攻ごとに取りまとめて、年1回、FD委員会に報告する。
- ⑨ 就職支援に関する活動  
活動実態については、専攻ごとに取りまとめて、年1回、FD委員会に報告する。また、大学院生の就職支援体制の充実に努める。
- ⑩ 社会人院生・社会人教育の実質化のための活動  
社会人院生に対して制度の充実や環境整備を具体的にどのように推進していくか検

討する。

- ⑪ 研究科設置の主旨に沿った教育方針具体化のための活動  
専攻・専修内の授業間の整合性の検証やスリム化を視野に入れた教育・研究体制のあり方について検討する。  
大学院の組織の見直しを随時検討する。
- ⑫ その他の活動  
大学院生室の有効活用の検討などを行う

## II. FD 活動の実施状況

以下、3つのアンケート調査を実施した。①と②については、平成28年度からWebを利用して調査しており、③については令和3年度から新たに実施した調査であり、Webを利用して行っている。

### ① 「大学院進学意識に関するアンケート」

大学院修士課程入学者を対象に、10月に実施した。その結果については、「III. 大学院進学意識に関するアンケート（結果の概要）」と題して、本報告書に掲載した。

### ② 「大学院の研究・教育に関する意見の収集」

全大学院生を対象に、昨年度とほぼ同じ内容で10月に実施した。その結果については、「IV. 大学院の研究・教育に関する意見の収集（結果の概要）」と題して、本報告書に掲載した。

### ③ 「大学院修了時アンケート」

令和5年3月修了予定の修士課程と博士後期課程の院生を対象に2月～3月にかけて実施した。その結果については、「V. 大学院修了時アンケート（結果の概要）」として、本報告書に掲載した。

## III. 大学院進学意識に関するアンケート（結果の概要）

### III-1 はじめに

大妻女子大学大学院人間文化研究科は平成22年4月（2010年）に改組して以来、13年目を迎えた。本年度も「大学院FD活動実施計画」に基づき、前年度とほぼ同様の内容で「大学院進学意識に関するアンケート」と「大学院の研究・教育に関する意見の収集」（IV.参照）を実施した。前者は修士1年生を対象に、後者は大学院生全員を対象に実施した。以下に両調査の結果の概要を提示する。

### III-2 進学意識に関する調査の目的と方法

「大学院進学意識に関するアンケート」の目的は、大学院進学にあたっての経緯や動機を把握し、いかにして多くの学生が集まる魅力的な大学院をつくるかの参考にすることにある。調査の方法は志望動機、志望決定にあたっての情報入手経路、他大学との併願状況、修了後のキャリア計画、大学院生活への抱負などを聞いた。

### III-3 調査の対象・時期・回収の状況

「大学院進学意識に関するアンケート」は、次の要領に基づいて実施した。

- (1) 調査の対象：令和4年度人間文化研究科各専攻修士1年生27名を対象とした。回答者は16名だった。
- (2) 調査の期間：令和4年10月14日（金）～10月30日（日）
- (3) 調査の方法：Webを利用して行った。
- (4) 回収の状況：平成27年度から今年度までの1年生の回答者数と回収率を表1に示した。期間

中、2度、回答催促を行った。今年度の回収率は59%で、一昨年度および昨年度の83.3%と比較すると激減した。

表1 大学院進学意識に関するアンケート（新入学者）

対象者	平成28年度 (H28)	平成29年度 (H29)	平成30年度 (H30)	令和元年度 (R1)	令和2年度 (R2)	令和3年度 (R3)	令和4年度 (R4)
新入学者	22	24	18	18	18	12	27
回答者	16	19	12	17	15	10	16
回答率(%)	72.7	79.2	66.7	94.4	83.3	83.3	59.2

### III-4 大学院への進学の動機について

「本学大学院への進学を志望するに当たって、その動機に係る1～12項目に対してどの程度重視しましたか」との問いに対する結果を、表2に示した。「非常に重視した」5点、「かなり重視した」4点、「どちらとも言えない」3点、「あまり重視しなかった」2点、「ほとんど重視しなかった」1点、「まったく考えたことがない」0点として平均点を算出した。

表2 大学院進学にあたって重視した動機項目の順位

		平均点数（5～1点評価）						
		H28 (n=16)	H29 (n=19)	H30 (n=12)	R1 (n=17)	R2 (n=15)	R3 (n=10)	R4 (n=16)
1	将来、研究職・臨床職に就きたいこと	3.7	3.9	2.9	3.4	2.8	3.2	3.6
2	専門分野の学位が取れること	4.0	4.1	3.9	3.6	3.8	3.8	4.2
3	就職に有利になること	3.5	3.3	2.3	2.5	3.0	2.6	2.8
4	自宅・会社からの通学が便利なこと	2.1	3.2	3.0	2.6	3.3	2.9	2.5
5	指導を受けたい教員がいること	4.4	4.4	3.8	4.0	4.5	3.9	4.0
6	大学のネームバリューがあること	2.3	2.5	2.2	1.8	2.5	2.0	2.6
7	就職を先に延ばせること	2.2	1.7	1.6	1.3	1.3	1.2	1.4
8	希望する就職先がなかったこと	1.5	1.4	1.2	0.6	1.4	1.3	0.7
9	奨学金を受給できること	2.7	2.3	1.6	1.8	1.3	0.6	0.9
10	専門の資格が取れること	4.0	3.8	3.1	2.6	2.0	3.1	3.6
11	研究したいことがあること	4.2	4.3	3.8	4.1	4.2	3.6	4.0
12	在学中の学費の支払いのこと		3.5	3.4	2.9	3.4	2.8	2.9

※表中数値は平均値

表2に見られるように、全体的な傾向としては過去6年間とほぼ同様であり、「指導を受けたい教員がいること」「専門分野の学位が取れること」「研究したいことがあること」といった項目が上位を占める。一方、「将来、研究職・臨床職に就きたいこと」「専門の資格が取れること」も比較的上位にある。

この質問に対しては、2件の自由記述があった。

- ・ 卒後教育が充実しているから
- ・ 周辺環境を含めた立地と設備

### Ⅲ-5 大学院進学にあたっての影響を与えた情報源について

表3 大学院進学にあたって影響源となった項目の順位

		平均点数 (5~1点評価)						
		H28 (n=11)	H29 (n=19)	H30 (n=12)	R1 (n=17)	R2 (n=15)	R3 (n=10)	
1	本学の先輩の研究成果を見たこと	1.9	2.8	1.7	2.4	2.0	1.6	2.2
2	大学院に行っている友人・知人からの情報	2.5	2.9	2.0	2.9	2.1	1.8	2.2
3	両親や兄弟姉妹から勧められたこと	1.1	1.8	2.2	1.9	1.3	0.9	1.5
4	自分の配偶者の意見	0.3	0.6	1.1	0.8	0.2	1.3	0.7
5	大学院紹介の受験雑誌などの記事	1.2	2.1	1.2	1.1	0.9	0.8	1.9
6	本学発行の大学院紹介パンフレット	3.0	2.9	2.6	2.6	2.3	1.4	3.4
7	学内の大学院進学説明会	2.5	3.6	2.9	1.8	2.6	2.1	3.3
8	学外の大学院進学説明会	1.2	1.4	0.8	0.8	0.2	1.4	1.8
9	本学のホームページの記事	2.7	2.6	2.0	2.9	2.5	1.3	2.9
10	指導教員になる教員との相談	4.5	3.9	4.2	4.2	4.5	3.6	3.6
11	学部時代お世話になった教員との相談	2.7	3.0	3.4	3.1	2.9	2.4	設問欄なし
12	出身の大学の先生との相談	2.7	3.0	3.6	2.5	2.0	2.5	2.6
13	出身の高校の先生との相談	0.9	0.8	0.2	0.4	0.3	0	0.2
14	教員の業績と研究テーマをみて、将来自分の研究テーマを追及していくうえで最適な場所と考えたから	3.9	3.8	3.6	3.9	3.9	3.1	3.3
15	他の大学院にはない独自の文化資源(蔵書、マニスクリプト、物的資料など)があると考えたから	1.6	2.1	1.8	1.9	2.4	1.6	2.4

※表中数値は平均値

「指導教員になる教員との相談」が高い得点であるのは、例年通りである。「学内の大学院進学説明会」「本学発行の大学院紹介パンフレット」が高い得点となったのは、新しい傾向であると考えられる。

自由記述欄に「志望する大学院に所属している大学院生の方からの情報」という記載が1件あった。

なお、「学部時代お世話になった教員との相談」は、「出身の大学の先生との相談」と設問が類似していたため、削除した。

### Ⅲ-6 他大学の受験状況：

「他の大学院を受験しましたか」の質問に対しては、16名中15名が「いいえ」と答えた。他大学大学院受験生は1名であり、それは、昭和女子大学 生活機構研究科 心理学専攻であった。

### Ⅲ-7 大学院修了後の進路及びどの様な大学院生活を送りたいか

「大学院修了後の進路は、どの様に考えていますか」については、平成28年度からの推移を表4にまとめた。複数回答であるため、数字は回答率で示した。

表4 大学院修了後の進路について (複数回答)

	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4
1 博士後期課程に進学したい	22	26	42	35	13	0	37
2 外国に留学したい	22	16	17	6	0	10	6
3 教育職員(専修)(幼稚園・小・中・高校・栄養教諭)として就職したい	28	21	25	12	13	0	6
4 専門社会調査士として就職したい	0	0	17	6	0	0	0

5 臨床心理士として就職したい	22	37	33	24	13	40	44
6 研究機関で研究開発の仕事に就きたい	6	16	8	24	13	20	19
7 民間企業で一般職の業務に就きたい	11	0	17	24	20	0	19
8 民間企業で総合職の業務に就きたい	11	16	17	24	13	30	12
9 公務員として就職したい	11	11	17	12	20	0	25
10 大学教員として就職したい	6	16	8	29	13	0	12
11 まだ具体的に考えていない	28	5	8	18	27	60	19

※表中数値は%

※複数回答のため、合計は100%を超えている。

表4に関しては、「臨床心理士として就職したい」が、昨年40%から今年は44%に上昇した。また、「博士後期課程に進学したい」が昨年0%から今年は37%と飛躍的に上昇した。

自由記述欄には、以下の二つの記載があった。

- ・修士課程で学んだことを生かせる道に進みたいと考えています。
- ・福祉・教育分野での就職を考えています。

「どんな大学院生活を送りたいか」の質問に対しては、平成28年度からの推移を表5にまとめた。複数回答であるため、数字は回答率で示した。

表5 どんな大学院生活を送りたいか（複数回答）

	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4
1 専門分野についての研究中心の生活をしたい	44	63	17	59	53	30	37
2 研究（実験・実習を含む）と自由時間をバランスさせたゆとりある生活をしたい	61	58	50	53	80	70	62
3 たくさん授業科目を履修して社会に出るための教養を深めたい	44	42	25	18	0	30	25
4 就職活動や資格を取るための時間を多くしたい	17	16	8	18	0	30	25
5 就職活動を早めに始めて、まずは就職を決めたい	11	16	8	12	20	20	12
6 狭い専門分野の研究にこだわらずに、幅広い分野の知識を得たい	17	37	25	18	47	30	56
7 アルバイトや遊びはできるだけ控えたい	0	11	17	12	7	10	12
8 アルバイトや遊びも大いにやりたい	11	6	8	12	13	20	19
9 自由な時間をできるだけ楽しみたい	17	16	17	18	33	20	25
10 どうするか、まだはっきり考えていない				9	7	0	0

※表中数値は%

※複数回答のため、合計は100%を超えている。

回答率が高い順に、「研究（実験・実習を含む）と自由時間をバランスさせたゆとりある生活をしたい」62%、「狭い専門分野の研究にこだわらずに、幅広い分野の知識を得たい」56%、「専門分野についての研究中心の生活をしたい」37%、「自由な時間をできるだけ楽しみたい」25%という結果が得られた。

### Ⅲ-8 大学院進学に当たって一番考えたこと、悩んだこと

「大学院進学に当たって一番考えたこと、悩んだこと」の質問に対しては、以下の13件の記載があった。

- ・就職について悩みました
- ・自分の将来の夢に一步でも近づくことができるかどうか
- ・時間が確保できるか
- ・専門外の教科を履修するにあたって、その内容を理解できるかどうか。
- ・心理職の就職枠の少なさ。
- ・自分自身、大学院での学びについていけるか心配なこと。
- ・金銭的なことを一番悩みました。奨学金のことや就職のことを考慮して最適な方法は何か考えました。
- ・修士の先の進路
- ・入試に受かるか、資格が取れるか、卒業できるか
- ・大学院に入学できるかどうか、課題や実習などをこなせるかどうか。
- ・大学院に進むことは親の迷惑にはならないか
- ・内部進学を希望していたので、まず受験基準の GPA を超えられるかどうかのプレッシャーに悩みました。
- ・時間の調整、お金

#### IV. 大学院の研究・教育に関する意見の収集（結果の概要）

「大学院の研究・教育に関する意見の収集」は、全大学院生を対象に授業内容、履修環境、事務体制に対して点数による客観的評価と自由記述による意見を集約し、授業方法の改善、カリキュラムの構成、設備の整備など、教育改革に反映させることを目的としている。

平成 25 年度から回答を、「非常にそう思う；5 点」から「まったくそう思わない；1 点」までの 5 段階評価としている。評価点は、回答者全員の平均点と最高点、最低点を算出している。

なお、新型コロナウイルス感染症の影響により様々な学生生活が制限されている状況を鑑み、設問を一部変更した。(1)は今年度からの変更点であり、(2)は令和 2 年度からの変更で、今年度もこれを踏襲した。

(1)新型コロナウイルス感染症の感染拡大状況および授業実施形態の変化によって回答に差が出る可能性があることから、「学年」を設問に加えていたが、対面授業を中心とした学生生活に好転しているため、「学年」を問う設問は廃止した。

(2) 通常、回答のための選択肢は 1～5 の中から選んでいるが、昨今の状況により影響を受ける一部の設問には、「0. コロナ禍により利用していない 等」を加えた。

(ア) 調査の対象：大学院人間文化研究科に在籍する大学院生 48 名

(イ) 回収の状況：39 件の回答があった（回答率 81.2%）。

結果の概要は以下の通りである。

##### IV-1 各評価項目

大学院の授業全般についての評価は表 6 の通りである。問 1 から問 4 までの各項目は 5 段階評価で概ね 4 点前後にあり、コロナ禍の制約はあったものの授業や研究指導はおおむね適切に行われているという評価であったといえる。

しかしながら、問 5 の学外研究・学外実習に関する項目は修士課程 1 年が 2.6、博士後期課程が 3.7 と低く、全平均も 2.8 にとどまった。昨年度よりも若干回復したものの新型コロナウイルス感染症の影響が学外での諸活動を制限したことが読み取れる。

表6 大学院の授業全般についての評価

課程	回答数	問1	問2	問3	問4	問5
			シラバスに記載された到達目標に示された知識や能力を獲得できた	授業の水準や範囲は大学院の授業として適切であった	授業の内容は専門知識等を習得する上で十分な意義が感じられた	研究指導や論文指導のあり方について適切であった
修士課程	31	4	4.1	4.3	4.3	2.6
博士後期課程	6	4.5	4.5	4.7	4.8	3.7
未選択	1	4	4	4	3	未回答
全平均	38	4.1	4.2	4.4	4.4	2.8
最高点	38	4	5	5	5	5
最低点		3	3	3	3	0

※表中数値は平均値、最高点及び最低点

続いて、大学院の履修および研究環境については表7の通りである。

事務手続きのシステム全般、およびガイダンスの日程や実施方法、図書館他学校の施設設備については4前後の評価が得られており、コロナ禍に対応した運用ができていたと考えられた。IV-2にとりあげた自由記述欄の記載を読むと、システム全般について、「UNIPAで登録できなかった」「研究助成金の振り込みに時間がかかる」という指摘があった。

図書館については、専門図書の充実を望む声があった。これは図書館としては、極めて由々しい事態である。これは、重要な事柄なので、最後に総括した。また、院生自習室については、多摩キャンパス所属の院生から、千代田キャンパスに比べ差別を感じる、という指摘があった。

表7 大学院の履修および研究環境について

課程	回答数	問6	問7	問8	問9
			システム全般の手続き方法について分かりやすかった	ガイダンスの日程や実施方法について適切であった	図書館他学校の施設設備について満足している
修士課程	31	3.5	4	3.5	3.9
博士後期課程	6	3.8	4.3	4	3.2
未選択	1	未回答	未回答	4	未回答
全平均	38	3.5	4	3.6	3.8
最高点	38	5	5	5	5
最低点		2	3	0	0

※表中数値は平均値、最高点及び最低点

教育・研究支援について表8に示す。

表8 教育・研究支援について

課程	回答数	問10	問11	問12
			院生自習室の設備について満足している	事務職員の対応は適切であった
修士課程	31	3.3	3.9	3.6
博士後期課程	6	2.7	4	3.5
未選択	1	10	5	4
全平均	38	3.2	4	3.6
最高点	38	5	5	5
最低点		0	1	1

※表中数値は平均値、最高点及び最低点

評価結果から、全体的には適切であったといえよう。しかしながら、IV-2にとりあげた自由記述欄の記載から、多摩キャンパスにおけるプリンタ関連の不満の声が顕著である。

#### IV-2 大学院の授業全般（問1～5）、履修・研究環境（問6～9）、教育・研究支援（問10～12）に関する自由記述欄への記述状況

自由記述欄に記載された意見については、そのままの意見を箇条書きで以下に記載する。

問1. 「大学院の授業ではシラバスに記載された到達目標として示された知識や能力を獲得できた。」

- ・知らなかったことや、新しいことを学んだことによって、学部生の時以上の知識を得ることが出来た。
- ・質問のしやすい環境のため、理解を深めやすかった。
- ・授業数が予告なく増えて、負担になることがあった。
- ・自分自身 時間がとれず、先生に質問等出来ない状態が多い。

問2. 「授業の水準や範囲は大学院の授業として適切であった。」

- ・そのほかの大学院の実際がわからないので比較できないが、質の高い学びを提供してもらったと思う。
- ・学部生として当たり前には知っていなければならないことを、再度やる場合がありその点は修士課程として適切ではないと感じた。
- ・学生のレベルが低くて教授陣に申し訳なく思う。
- ・範囲はさらに広がっても面白さがあって良いと思う。

問3. 「授業の内容は専門知識等を習得する上で、十分な意義が感じられた。」

- ・和歌などには今までほとんど触れなかったため専門知識をしっかりと得ることが出来た。
- ・自分の専門以外の授業であっても、意義を感じる事ができた。
- ・学部時代にとりきれなかった授業の補足をしてもらえたので助かった。



問4. 「研究指導や論文指導のあり方について適切であった。」

- ・指導教員はじめ、希望すればさまざまな教員が指導をしてくれる。毎週1回のペースで指導してくれるのもありがたい。また学部の先生方も興味を持ってくれており、ご指導くださることも、とてもありがたい。
- ・まだそこまで論文について行っていないため。

問5. 「学外研究・学外実習について希望通り実施することができた。」

- ・コロナ禍もあるが、現場は受け入れてくれた。検査は必要だが、受け入れてくれるだけありがたい。
- ・大学院の授業全般に関しては、教授・講師・助手の皆さんのおかげで多彩な分野を濃密に学べていると感じています。

基本的な座学だけでなく、実践的な知識についても学べている実感があります。臨床心理師あるいは研究者としての経験を、教授・外部講師を問わず皆さん共有してくださり、そこから学べるものは教科書にはない、本当に貴重で価値のある学びだと思っています。ディスカッションの機会も潤沢にあり、先生・学生間だけでなく、先輩・後輩、同期同士でも考えを共有し学びを深める機会ばかりです。

教育に関しては、一切の不満等はありません。

- ・新型コロナウイルスに罹ると持病が悪化するため禁止されているから実施できていない。
- ・コロナの影響による実習先の都合もあり実習内容が予定通りとはいかず、その領域の実習経験が乏しく感じる為。
- ・TAとのスケジュールの兼ね合いがあり、学外実習先の選択肢がなかったため。

問6. 「システム全般 (UNIPA での履修登録、研究助成) の手続き方法について分かりやすかった。」

- ・研究助成については、意見があります。まず、研究助成金(B)の金額が決定されてから、振り込みまでに相当な時間がかかりすぎだと思います。この研究費で、院生室のインク代やコピー代、書籍代を賄っており、大変重要なものとなっています。決してないがしろにされてはいけないと思います。指導教授とともに、4月中真剣に考えて作成したものです。もし振り込みに時間を要した理由があるなら、説明してほしいです。理由があるならば、納得もします。来年以降の参考にしてください。
- ・履修登録について:ユニパで登録したのにも関わらず、ユニパでは登録できず後日窓口に行き登録しなおさなくてはならないものなどがあった為。
- ・上の先輩が研究助成の見本としてご自身の当時の書類を見せてくださらなかったら手続きをすることは難しかったと思う。  
ページをまたがってはならないことを知らなかったため、ページ数をオーバーしてしまい、再提出となった。

問7. 「ガイダンスの日程や実施方法について適切であった。」

- ・ガイダンス後に不明な点が出てきた際、解決までに時間がかかった。

問8. 「図書館他の学校の設備について満足している。」

- ・問6~8に関して。事務対応、施設運営の皆さんに関しては、対面・非対面問わずに毎回誠実に対応してくださっていると思っています。システム全般、助成関係、提出物等におけるメールでの案内、資料配布など円滑に行われているため、とてもありがたいです。他大学の院生からは「事務が何も教えてくれない、支援制度があってもいつの間にか始まっていつの間にか終わっている」という旨を聞くことがあるので、大妻の運営の皆さんの配慮を日頃から感じています。

- ・臨床心理学関連の図書が多摩キャンパスにはなくて、千代田キャンパスにあるものが多々あります。心理学部のある多摩キャンパスを優先していただきたいです。
- ・図書館の本（特に専攻分野に関わる学術の図書をもっと充実できましたら大変助かります）
- ・図書館や文系共同図書室の学術系雑誌の種類を増やして欲しい。
- ・図書館のインターネット環境があまり良くない為。
- ・食堂の営業時間が短い。
- ・他の図書館から文献のコピーを取り寄せたときに、支払いが郵便局のみでしかできないのは不便に感じた。

問9. 「大学院生室・大学院生自習室の利用方法（利用時間も含む）について満足している。」

- ・自習室がもう少し広いと嬉しいです。
- ・（欲を言えば24時間、大学内に居て研究していただきたいのですが、）22時まで開門してくださっているのありがたいです。警備の皆さんの帰宅時間を考えると、ちょっと申し訳ない部分もありますが…。
- ・多摩:閉門の関係もあるかと思うが、他大のように利用時間の制限を無くして欲しい。（閉門時間後は翌朝開門まで院生室から出れないなどでも良いので）

問10. 「大学院生室・大学院生自習室の設備（PC・プリンタなどの設置機器、辞書・参考文献などの資料、室内レイアウト）について満足している。」

- ・プリンタが新しくなり、どのプリンタでもカラー印刷ができるようになったことはとてもありがたい。ただ、インクのなくなるペースが早いので、論文提出時期の混雑が心配。PCの動きはとてもよい。
- ・多摩キャンパスですが、専攻の先生方のご厚意（自費のプリンター購入、使っていたものを譲っていただく）や先輩方の置き土産（冷蔵庫、電子レンジなど）で設備面なんとか成り立っているのが正直なところです。（事務の皆さんも、設備の調整作業に真摯に携わってくださいました。）

千代田キャンパスと比較して、「在籍人数少ない＝運用できる設備費が少ない」のは重々承知ですが、あまりにも”お下がり”に頼りきっている印象があります。千代田キャンパスの設備を実際に使えたことがない（授業の関係で一切立ち入らないので……）ので、内実詳しくは知らない立場から発言させていただきますが、キッチンがないこと、水道がないことはなかなか不便な感じがあります。（建物の構造上、水道が引けないのも納得できますが、）先述したプリンターの件なども相まって「(教員、事務は頑張って支援してくれているのに、) 多摩キャンパスだけ、施設面にも支援されてないね」という感想を抱いてしまいます。

- ・PDFが編集出来ない。
- ・プリンタがパソコン室に設置されているものと比べて印刷が遅いです。また、インクや用紙の消耗が激しく、補助金だけで補うことが難しいです。インクや用紙を大学で購入していただけますと幸いに存じます。
- ・スキャナーの存在をもっと周知させたり使い方を明記したほうがいい。持ち腐れている。
- ・多摩キャンパス所属です。インク代だけで半年で12万円を超えました。なにかもう少し補助があると嬉しいです。
- ・プリンターなどの修理が必要になった場合は、出来るだけ迅速に対処して欲しいと思います。修理が必要な状態が続き、学内発表や修論・博論の提出期間になると、プリンターが使えず困ります。
- ・多摩:プリンターなどの設置機器の不調などがあるとどのように直すべきなのかなど院生全員で試行錯誤している状態で時間をかなり使っている。そして不調になる頻度も高い。過去、勉強しにきているのかプリンターを直しにきているのかわからないような日もあつ

た。インク代も研究助成金または院生の自費で賄っており、学費で払っている教育充実費などにそれは含まれていないのかと非常に疑問に思う。

- ・多摩校のプリンターやパソコンに不備が多く、自分たちで解決しなければならない事ばかりで不満がある。
- ・千代田のコピー機は図書館でカードを買ってくださいとなっていたが、前期の序盤は図書館のカード販売機が壊れていたので利用することができなかった。
- ・プリンターが早くて助かります。またオンライン会議のある都合上、個室もたまに使用させていただいてます。非常にありがたいです。

問 11. 「事務職員の対応は適切であった。」

- ・大所帯のため、細分化されているため、総合窓口が必要か。
- ・研究支援室の倫理審査申請書を指導教員経由で何度も確認していただき、大変お世話になりました。

問 12. 「大学院の学費・奨学金制度について」

- ・大学院の奨学金が、養育者の収入でしか申請できないことが疑問です。  
大学院には仕事をしながら通う学生がいますが、特に学部からストレートで大学院に入った学生は本人の収入だけでは学費を用意することは簡単ではありません。しかしながら、奨学金の申請は養育者の収入でしか申請することができないため、結果的に奨学金を受けられず自らの収入から学費を用意するしかありません。学生本人の収入から奨学金を申請できるようにして欲しいです。
- ・学費を上げてても良いのでもう少し環境整備をしていただいても良いのではないかと感じる。

### IV-3 ハラスメントについて

平成 24 年度からアンケート調査項目に「ハラスメントについて」を取り入れた。ハラスメントに関する平成 28 年度からの調査結果を図 1 に示した。「経験がある」が 1 名、「答えたくない」が 2 名であった。自由記述欄には 1 名が次のような意見を述べている。なお、アンケートを取る際に回答結果は慎重に扱う旨、例年通り明記している。

- ・大学院生は短い期間に成果を出すことを求められ、メンタルヘルス上の問題を抱えやすい環境です。また、指導教員と院生は非常に慎重さを求められる関係であることも、双方が認識しておくべきかと思えます。

アンケートから、ハラスメントあるいはそれに近い状況がいまだに存在していることが推測される。内容如何にかかわらず、ハラスメントは本来一件もあってはならないことであるが、指導教員と学生が 1 対 1 になりがちな大学院は起こりやすい環境であるとも言える。ハラスメントは一過性の行為ではなく常習的に行われることが多く、加害者側にハラスメントの認識がないケースがほとんどであることから、学生が副指導教員を含めた複数の教員から指導を受けられる体制を整え、学生の SOS 信号をできる限り早いうちに見つけ出すしくみの確立が重要である。

これまでとってきたハラスメント防止対策を再度、確認しておきたい。

- ① FD アンケートの回答について、修了生も申し出ができる機会を確保する措置を講じる。  
事案には FD 委員、ハラスメント委員、専攻教員が適宜対応する。
- ② ハラスメントに関する回答の FD 報告書への記載は、一部表現について個人を特定しづらい形に修正する。
- ③ 専攻会議等で結果を報告し、注意喚起を行う。

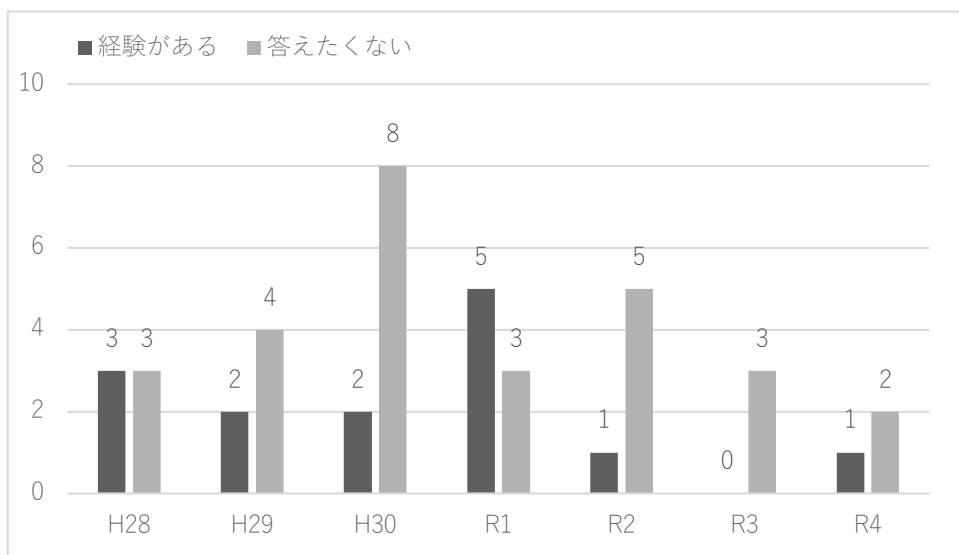


図1 ハラスメントについて

#### IV-4 社会人特別選抜の入学者への配慮について

社会人特別選抜の入学者を対象にした「授業の開講時間など適切な配慮がなされ、履修することができた」かの問いでは13名から回答を得た。77%が「5 非常にそう思う」か「4 そう思う」のいずれかであった。しかし、自由記述欄のような問題を指摘する声があった。これは、専任と非常勤との意識の差があるのかもしれないので、両者間で意識の統一を図るべきではないかと考えられる

社会人入学者の自由記述は3件あった。

- ・日中の仕事を配慮していただけるのはありがたいが、Zoomの使用もあいまって多くの講義が夜間に行われる雰囲気がある。これが行き過ぎると、一般の院生にとっては、まるで夜間通信大学院のようになってしまうのではないかと感じる。職場の理解を得つつ、日中の時間帯に対面での履修も考えなければならないのではないかと感じる。
- ・社会人対応してくださるとのことだったが、手続きがよくわからず、時間の変更ができない授業があった。
- ・多くの先生方のご協力下さり助かりました。一部の非常勤講師の先生とは履修登録前にやり取りは拒否され、相談すること自体難しく、のちに履修取り消しをせざる得なくなりました。

#### IV-5 その他意見・希望について

この質問に対する自由記述欄には以下のような記述があった。

- ・大学のFD活動は、中間発表の後に行われますが、結局はいつも同じ先生が答えていて、解決に行くまえに、意見をあまり聞いてもらえてないような、解決していないような感じがします。他大学と比較して学費が安いので、あまり文句は言えませんが、コピーインク代がもう少し、変われば良いと思います。また、学外実習の実習費ですが、個人によって出す額が違います。実習先も結局は、先生が選んでいる節があるのに、実習費が無料の学生もいれば、負担額が3万円の学生もいます。この実習費は学校が負担というのは、考えた事はないのでしょうか。自分が勉強したいから、行くのは当然である実習に、そういった暗黙の負担というのは、どこか違和感を感じます。意見をたくさん書いてしまいましたが、日々大変お世話になっておりますので、今後ともどうぞよろしくお願い致します。

## V. 大学院修了時アンケート（結果の概要）

### V-1 大学院修了時アンケートの目的

このアンケートは、令和5年3月修了予定の修士課程と博士後期課程の院生を対象に在学期間中の学修環境や体験・修得した能力について把握し、また自由記述による意見を集約することで、教育・研究環境改善につなげることを目的として、令和3年度より新たに実施した。

### V-2 調査対象・方法・期間・回収状況

- (1) 調査対象：大学院修士課程及び博士後期課程修了予定者（満期退学含む）13名
- (2) 調査方法：Google フォームによる WEB アンケート
- (3) 調査期間：令和5年2月27日～3月19日
- (4) 回収状況：回答数8件、回答率61.5%

結果の概要は以下の通りである。

### V-3 学修環境等についての評価

評価は表9の通りである。問1から問6までの各項目は4段階評価で「そう思う」4点、「ある程度そう思う」3点、「あまりそう思わない」2点、「そう思わない」1点として平均点を算出した。

表9 研究・授業、進路、学生生活についての評価

	回答数	問1	問2	問3	問4	問5	問6
		本学大学院在学中は研究・学業に意欲的に取り組みましたか	開講科目の数や種類は十分でしたか。	授業内容は、全体として満足していますか。	研究指導や論文指導について指導教員から十分な指導を受けることができましたか。	修了後の進路は希望に沿ったものになりましたか	大学院での学生生活に満足していますか。
全平均	8	3.5	3.4	3.3	3.5	3.4	3.4
最高点		4	4	4	4	4	4
最低点		3	2	2	2	2	2

※表中数値は平均値、最高点及び最低点

問1から問6までの平均値は3.3～3.5の範囲内であった。それぞれの質問項目間における顕著な差異は、伺われない。

#### V-4 大学院在学中に体験・修得した能力

知識や能力の向上に大きく役立ったことを表10に、在学中に修得した能力について表11にまとめた。

表10 知識や能力の向上に大きく役立ったことについて（複数回答）

	R3	R4
1 大学院での授業全般	70	50
2 指導教員による指導	90	75
3 研究活動	90	50
4 論文執筆	70	25
5 論文発表、最終試験	50	25
6 資格取得	0	12.5
7 院生時代に築いた人脈	50	50
8 その他	0	12.5
9 特に役立っているものはない	0	12.5

※表中数値は%

※複数回答のため、合計は100%を超えている。

表10からは、次のことを読み取ることができる。知識や能力の向上に大きく役立ったこととしては、昨年度と比較し、概して低調である。とりわけ「論文執筆」の25%というのは、異常な数字のように思われる。なぜなら、院生にとって、論文執筆は、自らの根幹にかかわる行為であるからである。それと連動する事柄が、次の表11からも窺うことができる。すなわち、「ものごとを分析する力」50%、「問題を論理的に考える力」50%、「プレゼンテーションを準備し発表する力」50%は、決して、手放しで喜んでよい数字ではない。

しかしながら、「人間関係を築いたり調整する力」87.5%、自分と異なる意見や考え方を柔軟に理解する力」75%というのは、注目すべき数字である。すなわち、コロナ禍にありながらも、対人交渉に関するスキルを体得している、と考えられるからである。

一方で、「英語の運用力」「情報技術の運用力」に関しては、共に0%であった。これは領域による必要性の差異があると思われるが、研究者として成長する場合、不安な要因であると思われる。

表 1 1 在学中に修得した能力について（複数回答）回答率（%）で表示

	R3	R4
1 教養	30	12.5
2 ものごとを分析する力	90	50
3 問題を論理的に考える力	80	50
4 特定の専門分野に関する理解力	70	75
5 肯定的な意味で批判的に考える力	30	37.5
6 自分と異なる意見や考え方を柔軟に理解する力	60	75
7 リーダーシップ	0	12.5
8 人間関係を築いたり調整する力	30	87.5
9 地域社会が抱える問題への関心や理解力	20	37.5
10 明快かつ簡潔に話す力	20	25
11 表現すべき内容の文章を書く力	50	62.5
12 英語以外の外国語の運用力	0	0
13 プレゼンテーションを準備し発表する力	60	50
14 学術的な文献の読解力	40	62.5
15 情報技術（ICT）の運用力	10	0
16 国際的な諸問題に対する関心や理解力	0	0
17 英語の運用力	0	0
18 ものごとの本質をみて判断しようとする力	50	37.5
19 自分を律して行動する力	40	37.5
20 得た知識やスキルを活かして問題を解決する力	60	50
21 これらの項目については特に伸びていない	0	0

※表中数値は%

※複数回答のため、合計は100%を超えている。

## V-5 教育全般についての自由記述

教育全般について、以下のような自由記述があった。

- ・2年間大変お世話になりました。ありがとうございました。
- ・先生方のモラハラなどが目立つときがあり、あまり頼りませんでした。
- ・教員の皆様、事務の方々からの手厚いご支援を賜り、十分すぎるほど数多くのことを学ばせていただきました。それでも自分はまだまだ未熟者ですし、愛着もあるため、もっとこの大学に通っていたいのが正直なところです。今までありがとうございました。お世話になりました。

## VI. 院生・教員懇談会の実施

開催の時期・方法については、各専攻・専修の協議によるものとした。今年度の実施状況は以下の通りであった。

専攻	実施内容
人間生活科学専攻D	保育・教育学専修は修士課程の学生と合同で実施した。健康・栄養科学専修は、新興感染症のまん延防止の観点から、大学院生・教員懇談会は実施しなかった。
人間生活科学専攻M (健康・栄養科学専修)	令和3年度に引き続き、新興感染症のまん延防止の観点から、大学院生・教員懇談会は実施しなかった。
(生活環境学専修)	令和2年度および令和3年度に引き続き、新興感染症のまん延防止の観点から、大学院生・教員懇談会は実施しなかった。
(保育・教育学専修)	専修内での中間発表を11月10日(木)16時30分～18時に千代田キャンパスF742教室においてZoomによるオンライン参加も含めて行い、院生と教員との間で修論に関する質疑応答の場を設け、飲食を伴う懇談会は実施せず、終了時に参加した院生にお菓子を配布した。
言語文化学専攻 (日本文学専修)	言語文化学専攻日本文学専修では、令和4年7月21日(木)および12月22日(木)に開催した「日本文学専修院生研究発表会」終了後、日本文学専修の院生及び教員の懇談をおこなった。
(国際文化専修)	新型コロナウイルス感染症等の影響により、院生・教員懇談会は実施できなかった。
現代社会研究専攻 (臨床社会学専修)	コロナ禍が続いたため本年度も懇談会を実施しなかった。しかしながら個々の担当教員が不断に学生からの意見や要望を聞き入れるようにしていた
臨床心理学専攻	2022年前期と後期の2回、大学院授業、実習、院生室の環境や学生生活等について、意見や要望、質問等を出してもらうように依頼した。その後、書面で提出された意見等に関し、オンラインで院生と大学院担当教員とで質疑応答と意見交換の時間を設けた。このオンライン会議には専任教員と院生全員が参加した。この時の話し合いを受け、院生室のPC環境(プリンター・コピー機を含む)の環境調整を行った。さらに種々の授業に関わる情報について有意義な情報交換をすることができた。その他、2023年2月25日(土)には非常勤講師(スーパーヴァイザー)と院生の顔合わせと交流を目的とした懇談会/情報交換会を行うなど、昨年と同様に定期的なFD活動を行い、その結果を大学院教育と院生生活の整備に還元している。



## VII. 学会発表の奨励に関する活動

学会発表に備えて、院生の各種学会への参加を奨励してきた結果、今年度の参加状況は次表の通りであった。活動類型のうち、「学会参加」のカテゴリーには「各種シンポジウム」「全国フォーラム」等への参加も含むが、学会での「発表」は含まないものとし、別途、IXに記載する。

専攻	活動類型	件数	内容
人間生活科学専攻 博士後期課程	学会参加	3件	<b>【健康・栄養科学専修】</b> 第76回日本栄養・食糧学会大会、第31回日本バイオイメージング学会学術集会 <b>【保育・教育学専修】</b> 乳幼児教育学会
言語文化学専攻 博士後期課程	学会参加	3件	<b>【日本文学専修】</b> 日本近代文学会春季大会、日本近代文学会6月例会、昭和文学会研究集会
人間生活科学専攻 修士課程	学会参加	14件	<b>【健康・栄養科学専修】</b> 第76回日本栄養・食糧学会大会、日本食物繊維学会第27回学術集会、日本災害食学会2022年度学術大会、第53回日本脾胃学会大会 市民公開講座「パープルリボン セミナー京都2022」、東京都栄養士大会、第81回日本公衆衛生学会、日本栄養士会・2022年度定時総会、日本調理科学会・2022 関東支部講演会 <b>【保育・教育学専修】</b> 日本発達心理学会第33回大会、日本保育者養成教育学会、日本乳幼児教育学会、日本保育学会第75回大会 <b>【生活環境学】</b> 共立女子大学大学院 学位(博士)請求論文公聴会、第14回2022年度生活科学系コンソーシアム博士論文発表会、海洋教育学会設立準備会
言語文化学専攻 修士課程	学会参加	9件	<b>【日本文学専修】</b> 第54回大妻女子大学国文学会総会、ないじえるクリエイティブ会議-古典のミライにアイデアを！-、中世王朝物語研究会例会 <b>【国際文化専修】</b> GPF japan『国際社会で重要な役割を担う日本にとって、朝鮮半島統一がもたらすインパクトとは？』、GPF japan『北朝鮮経済の変化と今後の展望—経済成長と国民生活の向上をどう実現するか—』、韓服イベント講演会、東アジア大学生ピースフォーラム 2022『核問題』、東アジア大学生ピースフォーラム 2022『在日コリアンの民族教育について』、2022年度中国文学会大会、日本中国学会第73回大会、2022年度キリシタン文化研究会大会
現代社会研究専攻 修士課程	学会参加	1件	ポジショナリティと日本社会～日沖関係・ジェンダーを中心に～
臨床心理学専攻 修士課程	学会参加	8件	日本心理臨床学会第41回大会、産業・組織心理学会第37回大会、日本認知・行動療法学会第48回大会、日本心理学会第86回大会、動物介在教育・療法学会、産業・組織心理学会、日本応用心理学会、日本・キャリアカウンセリング学会

## VIII. 学内発表会の奨励・支援に関する活動

学内での論文発表会については、「令和4年度大学院要覧」11頁に、「修士論文審査等に関する日程」のうち、第8番目の項目に「論文発表会の開催」として記載されている。その修士論文発表会を、令和5年2月25日に実施した。総勢13名の院生が発表した。当日のプログラムを以下に掲載しておく。

### 令和4年度 修士論文発表プログラム (オンラインによる開催)

日時 令和5年2月25日(土)9時00分開始(ミーティングへの入室は8時40分から可)

開会の挨拶 田中 直子 人間文化研究科長

総合司会 田中 優 教務委員長

開始予定時刻	発表順	発表者
9:00		田中優 教務委員長プログラム説明
9:05		田中直子 研究科長あいさつ
9:10	1	臨床心理学専攻
9:27	2	臨床心理学専攻
9:44	3	現代社会研究専攻 臨床社会学専修
10:01	4	臨床心理学専攻
10:18	5	人間生活科学専攻 健康・栄養科学専修
10:35～10:45 休憩・接続確認		
10:45	6	人間生活科学専攻 健康・栄養科学専修
11:02	7	臨床心理学専攻
11:19	8	臨床心理学専攻
11:36	9	人間生活科学専攻 健康・栄養科学専修
11:53	10	臨床心理学専攻
12:10～13:10 昼食休憩・接続確認		
13:10	11	現代社会研究専攻 臨床社会学専修
13:27	12	人間生活科学専攻 保育・教育学専修
13:44	13	人間生活科学専攻 健康・栄養科学専修

- ・持ち時間1人17分(発表12分、質疑応答・交代5分)です。発表開始から12分経過時、17分経過時が分かるよう、Zoom上でお知らせします。
- ・発表開始時間は進行状況により前後する場合があります。また、通信の不具合やその他の都合により発表が開始されない場合は、発表順を変更する場合があります。

#### 【オンライン実施上の注意】

- ・Zoomを利用して開催します。ミーティングのURLは、別途送信するメール本文でご確認ください。
- ・Zoomの個人表示名は自身の氏名にしてください。発表者は氏名の前に「発表」の文字を入れてください。  
(例: 発表 大妻花子)
- ・発表時、Zoomを接続している場所の周囲の環境音や、紙をめくる音などが雑音としてマイクに入ることがありますので、極力静かな環境で参加してください。
- ・入室時はマイクをミュートにし、発表順になったらミュートを解除してください。発表の2分前にはマイク・カメラを用意し、パワーポイント画面共有の準備をしておいてください。
- ・自分の発表以外は録音や録画をしないでください。

## Ⅸ. 院生論文集発行の奨励・支援に関する活動

新研究科の設置の趣旨に適合した院生論文集として、「人間生活文化研究:International Journal of Human Culture Studies」に掲載することとした。令和3年度の修士論文概要は、オンラインジャーナルの”No.32 2022”に掲載される。各専攻での研究教育活動の状況は以下の通りであった。研究教育活動の内容を「論文発表」「口頭発表」「ポスター発表」に分けて以下に示す。

専攻	発表形式	題目
人間生活科学専攻 博士後期課程	口頭発表	保育者は自らの視線についていかに語るか —保育者の実践的思考様式の検討—
	口頭発表	0歳児クラス担任保育者の「実践知」 —保育者の行為と思考を手がかりに—
	口頭発表	大麦に含まれるβ-グルカン及びアラビノキシランがマウスの腸内発酵やGLP-1分泌に及ぼす影響
	口頭発表	大麦β-グルカンの摂取による胆汁酸代謝を介した脂質代謝の改善メカニズムの検討
	論文発表	Consumption of barley flour increases gut fermentation and improves glucose intolerance via the short-chain fatty acid receptor GPR43 in obese male mice
	論文発表	A single administration of barley β-glucan and arabinoxylan extracts reduce blood glucose levels at the second meal via intestinal fermentation
	論文発表	Arabinoxylan as well as β-glucan in barley promotes GLP-1 secretion by increasing short-chain fatty acids production
	ポスター発表	オレイン酸が膵臓β細胞の酸化ストレス耐性に与える影響
	ポスター発表	Association between chewing habit and risk of excess gestational weight gain (Eri Abe)
	口頭発表	大型積み木を使用した初期段階の遊び場面におけるリスクマネジメント2
	論文発表	遊び場面におけるリスクマネジメント—「ズレ」概念の提案—
	口頭発表	幼児教育・保育の視点から見たアートパーク
	口頭発表	幼児と小学生の参加する持続可能な社会を目指すアートワークショップ
	口頭発表	リサイクル素材を用いた造形活動 ～ストロー素材の塊を使って何ができるかな?～
	ポスター発表	
	口頭発表	子どもが楽しむくアート=芸術>感とは ～アートワークショップの実践を通して～
	論文発表	子どもたちのためのアートワークショップの可能性—持続可能な発展とホリスティック教育の観点から—
論文発表	保育の可視化とドキュメンテーションの活用実態及びその課題	

	論文発表	幼児教育・保育の視点から見たアートパーク
	論文発表	キットバスで教材研究～子どもたちと教員の探求～
	論文発表	模擬保育は実習とその後の学びにどのように関連しているのか －実習事前事後指導時の学生の自己評価の変化に着目して－
	口頭発表	The relationship between Panel Theater and Sustainability of Concentration - Focusing on Children with Poor Concentration
言語文化学専攻 博士後期課程	論文発表	いとうせいこう「想像ラジオ」論 －フクシマからの死者たちの声が共存し続けるために
	論文発表	宮崎駿の中国での SNS の評価から考える
	口頭発表	－宮崎駿という人物と彼の作品に纏わる異文化受容－
人間生活科学専攻 修士課程	ポスター発表	女子大学生を対象とした食事記録調査方法の検討 －平日と休日に分けて行う必要性について－
	口頭発表	遊び場面の「ころがしドッジボール」における「ノリ」とは
言語文化学専攻 修士課程	論文発表	オルガンティエーノと宇留岸伴天連(仮) 渡邊顕彦共著予定
	口頭発表	在日コリアンが抱える問題。現地社会との摩擦
	口頭発表	2018年の南北首脳会談を経て朝鮮半島がどのように変化したか、また日本と朝鮮半島 の外交関係について
	口頭発表	アメリカ合衆国と日本の外交関係による謝罪の難しさ
	論文発表	呉昌碩早期における文人的思考の考察－刻印と側款からの発信を通して－
	口頭発表	
臨床心理学専攻 修士課程	口頭発表	心理療法におけるポジティブ感情の 相互的感情調節プロセスモデル構築と検証
	口頭発表	社交不安に対するエクスポージャーへの補完的介入としてのアニマルセラピーの有効 性の検討
	論文発表	キャリアレジリエンス測定尺度の再構成と短縮版の作成
	ポスター発表	オンラインオンデマンドでの呼吸法誘導の効果
	ポスター発表	感覚処理感受性が主観的幸福感に及ぼす影響

## X. 他大学との各種連携の活性化に関する活動

現在、現代社会研究専攻では、相互の交流と発展を目指して、社会学分野ならびにその関連分野の授業科目に関して、特別聴講学生の単位互換制度を設けている。詳しくは、「令和4年度大学院要覧」27頁を参照されたい。

## XI. 就職支援に関する活動

今後、キャリア教育の充実の観点から就職支援を強化していくための具体的な方策を検討していく。

専攻	主な進学先・就職先	
人間生活科学	就職	・亀田製菓株式会社
臨床心理学	就職	・社会福祉法人同仁学院 さまりあ ・横浜市立横浜市民病院 ・東京都教育相談センター 東京都教育相談室 ・相模原市立青少年相談センター
	進学	・大妻女子大学大学院 人間文化研究科 博士後期課程 健康・栄養科学専修

## XII. 社会人院生・社会人教育の実質化のための活動

社会人特別選抜の入学者に授業の開講時間など適切な配慮がなされたかについては、アンケートをとったところ、全体の評価は良く、社会人学生から一定の評価を受けているといえる。

また、「大学院設置基準第14条に定める教育方法の特例」により勤務形態に配慮した教育研究体制を希望する学生の入学にあたり、入学先となる人間生活科学専攻教員への周知体制を強化した。

次年度も引き続き、千代田・多摩キャンパスの連携・充実を具体的にどのように推進していくか検討する。

## XIII. 研究科設置の主旨に沿った教育方針具体化のための活動

新研究科の設置の主旨のひとつである「学部横断的（専攻・専修横断的）な教育・研究体制のあり方」、ならびに、「学位取得に至るまでの組織的指導体制の具体化・実質化」を推進して行くために、平成23年度入学生より、「中間発表会（旧研究計画発表会）」を研究科全体で実施することとし、「修士論文審査等に関する日程」のプログラムの中に位置付けることを決めた。

#### XIV. その他の活動

「その他の活動」として、院生によるティーチング・アシスタントの実施状況一覧を次に掲載しておく。

##### ティーチング・アシスタント等について

ティーチング・アシスタント等に 任用される大学院生・研究生	担当授業科目					
所属・学年等	開講学科等	授業科目名	授業担当 教員名	開講 時期	開講曜日 ・時限	開講 校地
人間生活科学専攻 (修士課程)	家政学部 食物学科 管理栄養士専攻	人体構造機能論実験	高波 嘉一	前期	金曜 4 限	千代田校
	家政学部 食物学科 管理栄養士専攻	実践統計学	清原 康介	後期	水曜 3 限	千代田校
	家政学部 食物学科 管理栄養士専攻	生活環境実験	田中 直子	前期	木曜 3、4 限	千代田校
	家政学部 食物学科 管理栄養士専攻	食品学実験	渡辺 雄二	後期	金曜 3、4 限	千代田校
	家政学部 食物学科 管理栄養士専攻	基礎調理学実習Ⅱ	玉木 有子	後期	月曜 3、4 限	千代田校
	社会情報学部 社会情報学科 環境情報学専攻	情報処理実習A	鈴木 優志	前期	木曜 3、4 限	千代田校
臨床心理学専攻 (修士課程)	人間関係学部	コンピュータ応用	西川 徹	前期	月曜 4 限	多摩校
	人間関係学部 人間関係学科 社会・臨床心理学専攻	基礎統計学Ⅰ	伊藤 尚枝	前期	火曜 3 限	多摩校
	人間関係学部 人間関係学科 社会・臨床心理学専攻	基礎統計学Ⅰ	高橋 幸子	前期	火曜 3 限	多摩校
	人間関係学部 人間関係学科 社会・臨床心理学専攻	社会・臨床心理学基礎 セミナー	八城 薫 三好 真	前期	火曜 4 限	多摩校

臨床心理学専攻 (修士課程)	人間関係学部 人間関係学科 社会・臨床心理学専攻	基礎統計学Ⅰ	八城 薫	前期	水曜 2 限	多摩校
	人間関係学部 人間関係学科 社会・臨床心理学専攻	キャリア心理学セミナー	八城 薫 本田 周二 三好 真	前期	水曜 4 限	多摩校
	人間関係学部	コンピュータ基礎A	小幡 正子	前期	水曜 4 限	多摩校
	人間関係学部 人間関係学科 社会・臨床心理学専攻	心理学統計法	八城 薫	後期	火曜 2 限	多摩校
	人間関係学部 人間関係学科 社会・臨床心理学専攻	基礎統計学Ⅱ	伊藤 尚枝	後期	火曜 3 限	多摩校
	人間関係学部 人間関係学科 社会・臨床心理学専攻	心理学基礎実験	堀 洋元 伊藤 尚枝	後期	火曜 4 限	多摩校
	人間関係学部 人間関係学科 社会・臨床心理学専攻	基礎統計学Ⅱ	本田 周二	後期	水曜 1 限	多摩校
	人間関係学部	コンピュータ基礎B	小幡 正子	後期	水曜 4 限	多摩校
	人間関係学部	コンピュータ基礎B	齊藤 豊	後期	金曜 2 限	多摩校
	人間関係学部	コンピュータ応用	齊藤 豊	後期	金曜 3 限	多摩校

## XV. おわりに

今回は、「大学院進学意識に関するアンケート」「大学院の研究・教育に関するアンケート」「大学院修了時アンケート」の3種類のアンケートを実施した。評価を点数化し経年変化をみる集計方法は継承し、自由記述も基本的にはほぼそのままを掲載した。

一昨年度からの新型コロナウイルス感染症の拡大により、大学院生はもとより教職員も大きな制約を受ける中で大学院教育が実施されている。今年度は昨年度に比較すると状況は回復しているものの、調査研究は大きく制約を受け、学生間の交流、並びに、対外的な活動も自由に行えない状況である。新型コロナウイルス感染症の影響は、今後の統計上の数値の推移を考慮に入れ、慎重に判断する必要がある。

今回、アンケート結果を通覧し、多肢選択からは掬いきれない、自由記述の内容がとても参考になるとの印象を受けた。とりわけ、登録の問題、モラハラの指摘は、たとえ少数であろうとも、看過できない事柄であると思われる。

今回のアンケートで一番気になったのは、「図書館の専門書を充実させてほしい」という声であ

る。これは、現行の図書館の現状に、院生が満足していないことを表している。しかし、「本がない」と言って手をこまねているのは、あまりにも消極的である。専門領域に関する情報は、図書館司書よりも、院生の方が圧倒的に詳しいはずである。院生は、その分野の専門家であるという自覚を持ってほしい。院生には、図書館に対して、必要図書の購入を図るよう働きかける積極性が欲しい。それが、自らのみならず、同輩、あるいは、今後の後輩に裨益する道であり、図書館の収蔵図書の充実につながる。具体的には、図書館に以下の制度があるので、活用が望まれる。これは、教員と院生が共有すべき情報と思われる。

制度：図書購入申込み

○この制度の電子媒体上の情報：

図書館 HP > 利用案内 > 学生の方

■図書の利用方法

(7) 購入希望の申し込み

<https://www.sjc.otsuma.ac.jp/lib/guide/student/>

○この情報の紙媒体の情報

「学生生活の手引き」

「図書館利用のしおり」（図書館 1 階カウンター横に設置）

○具体的な利用法：

<1> 図書館 HP トップページにある「MyOPAC」をクリック

<2> 学内システム利用アカウントで「MyOPAC」にログイン

<3> 「利用者サービス」メニューの「図書購入申込み（学生・職員用）」から手続き  
図書館 HP

<https://www.sjc.otsuma.ac.jp/lib/>

○利用するにあたって留意すべき事項

<1> 一人あたりの金額および冊数の上限は設けていない。

<2> 図書館の予算と収納スペースには限りがある。

<3> 高度に専門的なものや、数万円以上の高額な図書、全集やセットもの場合は、図書館へ購入を申し込む前に、指導教官に相談してみることを。

○図書館 HP に記された留意すべき事項

<1> 図書館 HP → 利用案内 → ご質問・ご意見・ご要望 →

これまでのご質問・ご意見・ご要望はこちら

よくあるご質問 Q. 欲しい本がない・本を買って欲しい

<https://www.sjc.otsuma.ac.jp/lib/guide/question/answer/>

<2> 図書館 > 情報検索 > データベース > 蔵書検索

MyOPAC 次の点にご注意ください

<https://www.sjc.otsuma.ac.jp/lib/info/database/?my-open=true#myopac>

(上記の情報においては、図書館の協力を得ました。)

今後もこのような FD 活動を継続していくとともに、院生の声に日常的に耳を傾け、それに対して、教員および職員が、柔軟かつ迅速に対応することが重要であると考えられる。

以 上